高橋　正人　山﨑　真　大竹　成美　木村　貴博

主題「道徳的課題を自分事として捉え、自己のよりよい生き方を考え続ける生徒」の育成

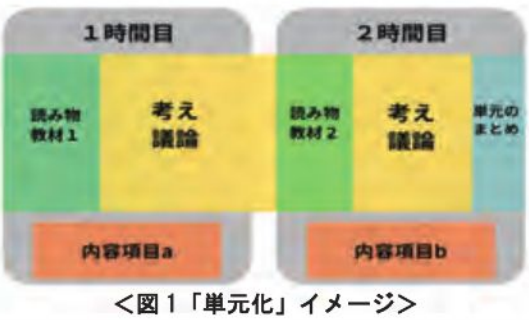
1　主題設定の理由

学習指導要領解説特別の教科道徳編では、道徳科の目標として、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めること」が示されている。また、多様な価値観に対立がある場合を含め、道徳的諸価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢が求められている。さらに、中央教育審議会道徳ワーキンググループ（2026）では、「実社会の道徳的課題には複数の価値が絡み合っている一方で、一つ一つの内容項目に焦点化した授業では、それぞれの関連や対立の可能性が十分に扱われていない側面がある」と指摘されている。昨年度は、生徒が道徳的課題の解決に向けた学習を主体的にデザインすることで、道徳的諸価値についての理解を自分自身との関わりで深める学びを行った。しかし、授業では一つの内容項目を中心に扱っていたため、異なる価値との関連や葛藤を十分に検討するまでには至らなかった。このことから、道徳的課題をより多面的・多角的に捉えるためには、複数の内容項目を関連付けて考える単元構想が必要であると考えた。

今年度は、道徳科の授業で考えてきたことを生徒自身がどのように振り返り、価値を再構成し、次の判断へとつなげていくのかという「振り返り」に焦点を当てる。その際、関連する複数の内容項目を扱い、複数時間の学びをつなぐ振り返りを学習過程に位置付けることで、前時までの学習で形成した自分の考えを新たな道徳的課題に向き合う中で問い直していけるような単元の構想を取り入れる。生徒が未来をよりよく生きるために、道徳的課題を自分事として捉え、自らの考えや判断を捉え直しながら、人間としての生き方について考え続け、次の道徳的判断や実践意欲へとつなげていく学びを一層充実させる必要があると考える。特に、振り返りを中心とした単元の再構築を行い、生徒のエージェンシーを高めながら、実生活と往還する道徳科の単元化を図る必要があると考え、本主題を設定した。

2　生徒がエージェンシーを発揮し、振り返りをもとに探究的な学びを深めるための手立て

(1) 複数の内容項目を関連付ける単元構想



<図1「単元化」イメージ>

中央教育審議会道徳ワーキンググループ（2026）では、「現代的な諸課題を含め、実社会での道徳的課題に、対立や葛藤を含め複数の価値が絡み合っていることを踏まえた、複数の内容項目を関連付けた学びの在り方」が検討事項として示されている。そこでは、現実社会の課題には複数の価値が関わっており、一つの内容項目だけでは十分に捉えきれない場合があることから、複数の内容項目を関連付けたり一つの教材を複数時間にわたって扱ったりする単元化の構想案が示されている。

これらを踏まえ、生徒が自ら見出した道徳的課題について多面的・多角的に考察するために、従来の「一授業＝一内容項目」という扱いを見直し、関連する内容項目を横断的に扱う授業の単元化を提案する（図1）。このような構成にすることで、生徒は前時までの学習で形成した自分の考えと、新たな道徳的課題に対する判断とを照らし合わせ、「なぜ自分はこう考えたのか」「何を大切にして判断したのか」と、自らの考えや判断、その根拠を振り返ることができると考える。さらに、一つの価値を絶対的なものとして捉えるのではなく、複数の価値との関係の中で捉え直すことを通して、道徳的価値を多面的・多角的に理解し、自己の生き方について考えを深めていくことができると考える。

(2) 学びをつなぎ、道徳的判断を問い直すスタディログ

本校では、全ての道徳授業においてスタディログを活用し、生徒が授業で考えたことや新たに生まれた問いを継続的に記録している（図2）。本研究では、スタディログを単なる学習記録の保管ではなく、これまでの道徳科の学習で形成した自らの道徳的判断を想起し、新たな道徳的課題に向き合う中で、その判断や根拠を問い直すためのツールとして位置付ける。授業の導入や学習の途中に過去の記述を読み返す場面を設けることで、生徒は前時までの学習と現在の学習とを関連付けながら考えを深めることができると考える。



<図2 「スタディログ」イメージ>

例えば、前時の学習で「相手を思って行動することが大切である」と記した生徒が、次時に、相手への思いやりと規則を守ることの双方が問われる道徳的課題に向き合う際、前時の記述を読み返す。生徒は、「相手を思う行動であれば、規則に反してもよいのか」「その行動が、別の人の安全や安心にどのような影響を与えるのか」と考えることになる。このように、前時までに形成した道徳的判断を新たな道徳的課題に照らして考えることで、自分が何を大切にして判断していたのかを問い直すことができる。

以上のように、スタディログは、自らの考えや判断の変化を記録するだけでなく、過去の記述と現在の考えとを照らし合わせ、自らの道徳的判断やその根拠を問い直すための基盤として機能する。その過程を通して、生徒は、複数の道徳的価値が関わる課題について考え、道徳的諸価値についての理解を深めながら、人間としての生き方について考え続けることができると考える。

3　授業実践例

(1) 内容項目・主題名　B-(6) 思いやり、感謝　C-(10) 遵法精神、公徳心　D-(19) 生命の尊さ
「人を大切にするとは」

(2) 実施時期／学年／配当時間　令和８年５月～6 月／第３学年／全４時間

(3) ねらい

思いやりの心をもって他者と関わることの大切さを出発点としながら、法やきまりの意義、生命の尊さとの関係について考えることを通して、人を大切にするとはどのような判断や行動なのかを多面的・多角的に考え、よりよい判断や行動をしようとする道徳的判断力を育てる。

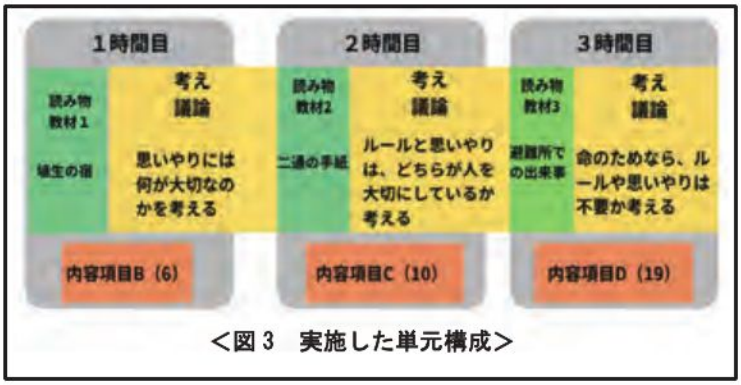
(4) 実践の概要

単元化（図3）の１時間目として、内容項目 B-(6)の『埴生の宿』を扱った。事故により言葉や感情をうまく表現することができなくなった苑子と、クラスメイトとの関わりを手掛かりに、思いやりは「かわいそうだから優しくすること」や「特別扱いすること」ではなく、その人の状況や気持ちを考え、相手を支えようとする心であることを生徒は捉えていた。

単元化の２時間目では、内容項目 C-(10)遵法精神、公徳心の『二通の手紙』を扱った。閉園間際にやって来た姉弟を思いやって規則を破った元さんの行動について考えたが、このタイミングで前時のスタディログを読み返し、生徒が「相手を思って行動することが大切である」と考えていた自分の価値判断を想起した。生徒は、「ルールを守るべきだと思うが、前時は思いやりが大切だということを学んでいる。」と自身の価値観に揺れが生じている。そこでは、「姉弟のことを思った元さんの行動は温かい」と

いう考えと、「規則を破ることで、別の誰かの安全や安心を損なうこともある」という考えが出され、ルールと思いやりの関係を踏まえながら考えを深めていった。

単元化の3時間目では、内容項目D-(19)の『避難所での出来事』を扱った。大きな地震の後、腹痛を訴える息子を病院へ連れて行くために、父が他人の車を使うという場面について考えたが、「命を守るためなら仕方がない」「息子が助かったのだからよかった」と考える一方で、このタイミングで前時のスタディログを読み返すことで、「車を使われた人の命や生活はどうなるのか」「命のためならルールを破ってもよいのか」といった問いにも向き合った。生命の尊さを、思いやりや遵法精神と切り離して考えるのではなく、複数の価値との関係の中で捉え直す姿が見られた。スタディログを手掛かりに、前時までの「思いやり」や「ルール」についての考えを想起させたことで、生徒は一つの価値だけでは判断しきれない場面に出会い、価値の関連や葛藤を意識しながら考えることができた。

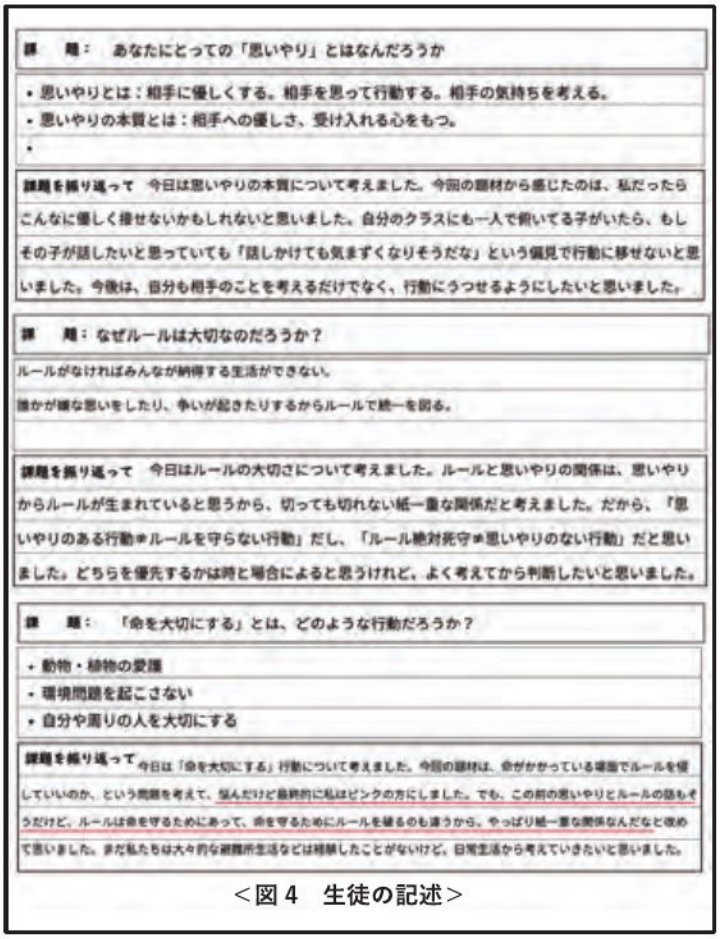


＜図3　実施した単元構成＞

最後に教師は、生徒たちが単元を通して思いやり、ルール、命という複数の価値に向き合いながら考え続けてきたことを価値付けた。生徒たちが目の前の人を大切にしたいという思いをもちながらも、その判断が別の誰かの安心や命に関わることに気付き、迷いながらも考えを深めてきた過程を称賛した。その上で、これからの生活の中でもすぐに答えが出ない場面や、どの価値も簡単には切り捨てられない場面に出会うことがあると述べて授業を終えた。

4　研究の成果と課題

本研究では関連する複数の内容項目を横断的に扱う単元構想を行った。その結果、生徒が一つの内容項目の枠内にとどまらず、複数の価値を関連付けながら道徳的課題について多面的、多角的に考える姿が見られた。5月～6月に行った「思いやり、感謝」「遵法精神、公徳心」「生命の尊さ」を関連付けた実践では、相手を思って行動することが大切であると考えていた生徒が、次時ではルールと思いやりの関係に揺れながら遵法精神について捉え直し、最終的に思いやりと遵法精神を踏まえながら命を大切にすることがどういうことなのか考えを広げる姿が見られた（図4）。これは、スタディログの活用によって、前時で理解した価値を否定するのではなく、別の価値との関係の中で問い直すことで、道徳的価値により深く迫る姿であると考えられる。特に第3学年の生徒は、3年間にわたるスタディログの蓄積があることで、単に本時の感想を書くのではなく、過去の自分との対話を踏まえて、目の前の道徳的課題について考えることができていた。スタディログは、学習内容を保存するだけでなく、前時の価値理解を想起させ、次時の価値判断の揺れを生み出す


課　題：　あなたにとっての「思いやり」とはなんだろうか

・思いやりとは：相手に優しくする。相手を思って行動する。相手の気持ちを考える。
・思いやりの本質とは：相手への優しさ、受け入れる心をもつ。
・

課題を振り返って　今日は思いやりの本質について考えました。今回の題材から感じたのは、私だったらこんなに優しく接せないかもしれないと思いました。自分のクラスにも一人で弱いてる子がいたら、もしその子が話したいと思っていても「話しかけても気まずくなりそうだな」という偏見で行動に移せないと思いました。今後は、自分も相手のことを考えるだけでなく、行動にうつせるようにしたいと思いました。

課　題：なぜルールは大切なのだろうか？

ルールがなければみんなが納得する生活ができない。
誰かが嫌な思いをしたり、争いが起きたりするからルールで統一を図る。

課題を振り返って　今日はルールの大切さについて考えました。ルールと思いやりの関係は、思いやりからルールが生まれていると思うから、切っても切れない紙一重な関係だと考えました。だから、「思いやりのある行動＝ルールを守らない行動」だし、「ルール絶対死守＝思いやりのない行動」だと思いました。どちらを優先するかは時と場合によると思うけれど、よく考えてから判断したいと思いました。

課　題：　「命を大切にする」とは、どのような行動だろうか？

・動物・植物の愛護
・環境問題を起こさない
・自分や周りの人を大切にする

課題を振り返って　今日は「命を大切にする」行動について考えました。今回の題材は、命がかかっている場面でルールを優していいのか、という問題を考えて、悩んだけど最終的に私はピンクの方にしました。でも、この前の思いやりとルールの話もそうだけど、ルールは命を守るためにあって、命を守るためにルールを破るのも違うから、やっぱり紙一重な関係なんだなと改めて思いました。まだ私たちは大々的な避難所生活などは経験したことがないけど、日常生活から考えていきたいと思いました。

＜図4　生徒の記述＞

手掛かりとして機能したと考えられる。また、授業後に単元化とスタディログに関わる生徒アンケートを行ったところ、「他の教材や、これまでの学びをつなげて考えることができてよかった」や「過去の自分と比較しながら考えることができる」といった記述が見られた。これらの記述から、関連する複数の教材を扱うことや、これまでの記述を読み返すことが、自らの考えや判断を問い直す手掛かりとなったことがうかがえる。

一方で、課題も明らかになった。第1に、前時までの学びを現在の学びに十分につなげられなかったことである。本実践では、三つの内容項目を関連付けたことで、生徒は前時までに考えたことを新たな道徳的課題と結び付け、自らの道徳的判断やその根拠を問い直すことができた。しかし、生徒アンケートには、「期間が空いて内容を忘れてしまう」との記述も見られた。前時までの学習で形成した考えを十分に想起できず、現在の学びと関連付けて考えることが難しかった生徒もいたことが分かる。

第2に、単元で学んだことを今後の生活における判断や行動に十分につなげられなかったことである。本実践では、スタディログを用いて過去の記述と現在の考えとを比較し、自らの道徳的判断やその根拠を問い直す姿が見られた。一方で、学んだことを日常生活や社会生活のどのような場面で生かしたいか、今後どのように判断し行動したいかまで具体的な考えが表れた記述は十分に見られなかった。

5　今後の展望

単元化によって、生徒が一つの道徳的価値についての理解にとどまらず、複数の道徳的価値を関連付けて道徳的課題を多面的・多角的に考え、自らの道徳的判断やその根拠を問い直す姿が見られた。一方で、前時までの学びを現在の学びに十分につなげられなかった生徒や、単元で学んだことを今後の生活における判断や行動にまで具体的に結び付けられなかった生徒も見られた。単元化においては、多くの内容項目を扱うこと自体を目的とするのではなく、生徒が道徳的課題に迫るために必要な内容項目を精選する必要があると考える。また、単元終末において自らの道徳的判断やその根拠を振り返るだけでなく、学んだことを日常生活や社会生活の中でどのように生かしていくのかを考えることができるよう、教師は発問や活動を工夫する必要があると考える。今後も、生徒が道徳的課題を自分事として捉え、これまでの学びを振り返りながら、人間としての生き方について考え続けていく姿を目指したい。

＜参考文献＞

浅見哲也（2020）『こだわりの道徳授業レシピ～あなたはどんな授業がお好みですか？～』東洋館出版.
浅見哲也（2021）『道徳科 授業構想グランドデザイン』明治図書出版.
浅見哲也（2026）『これからの道徳教育はどうあるべきか』東洋館出版.
中央教育審議会（2026）『目標・内容の構造化等及び「考え、議論する道徳」の実装に向けた学びの在り方について』.
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　教育出版, p.91.